誰もがともに支え合い、くらす共生のまち

～毎年12月3日～9日は『障害者週間』です～

問 播磨町地域自立支援協議会事務局☎079-437-3456

障害者週間は、障がい者があらゆる分野の活動に参加することを促進するために『障害者基本法』により設けられているものです。障がいのあるないに関わらず誰もがともに支え合い、暮らせるまちにするためには互いの人権と個性を尊重し、支え合うことが大切です。

「障害」はみんなの問題

播磨町　障害者基幹相談支援センター　河原正明

令和3年3月に策定された第6期播磨町障害福祉計画によると、播磨町には、何らかの障害者手帳をお持ちの方が、1，770名（人口の5・1％）、そのうち65歳以上の高齢者が904名おられ、高齢者人口の9・5％に相当します。つまり、今はお元気でも長い人生の中で病気や事故などにより1割近い方が障害を負うことになるわけです。

皆様は、この数字をどのように感じられましたか？

たしかに個人で考えると、生きているうちに障害を負う確率は10分の1ですが、親、自分、配偶者や子どもといった家族単位で考えると2分の1になるわけです。つまり、障害という問題は、自分の家族かお隣の家族に起こり得る問題だといえます。

現在、日本では「障害」のとらえ方が、病気による心身機能の「障害」（医療モデル）から、まちづくりや偏見や差別による生きづらさの「障害」（社会モデル）に重点を置きつつあります。

播磨町では、たとえご家族に「障害」があっても一緒に食事に行ったり、お買い物に行くことのできる町でしょうか？地域の中で助け合いながら暮らすことのできる町でしょうか？そして、そのために自分は何ができるのでしょうか？

そんなことを考え、お話しできる期間になってほしいと願っています。

これなに？

義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病の人、妊娠初期の人などが持つ兵庫県の発行するヘルプマークです

障害者のためのシンボルマーク

播磨町地域自立支援協議会では、障害の有無に関わらず、安心して自分らしく暮らせるまちづくりを目指しています。

全体研修　障害者虐待防止研修会
『誰にとっても住みやすいまちに変えていくために～障がいの社会モデルの視点～』

参加費無料。どなたでも参加できます

▼**講師**　谷内孝行（桜美林大学准教授）
▼**日時**　12月12日(月)午前10時～正午
▼**場所**　役場3階BC会議室
▼**定員**　先着30人
▼**申込み**　QRコードまたは電話・FAXで播磨町地域自立支援協議会事務局
☎FAX079-437-3456

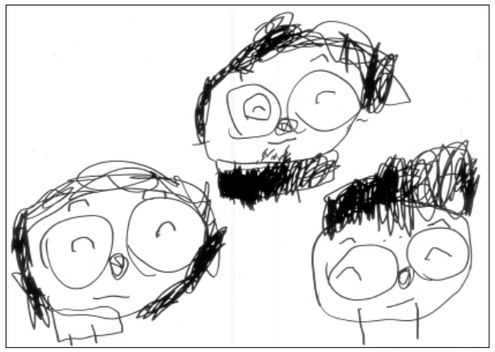
「こころのバリアフリー播磨町障害者作品展」

12月4日(日)～10日(土)の人権週間・月間と共同開催です。

▼**期間**　12月1日(木)～12日(月)
▼**場所**　中央公民館ロビー
▼**問合せ**　播磨町地域自立支援協議会　事務局
☎FAX079-437-3456
✉harima@jiritu-h.com

12月4日～10日は人権週間です

～中学生の人権作文を紹介します～



「ともだち　たくさん　うれしいな」
蓮池幼稚園（3歳児）ふじた　みずき

電車の席

播磨中学校二年　野川　健太郎

あなたは自分より、大変そうな人がいたら席を譲りますか？前までは、誰かが譲ってくれるだろうと思っていました。

二つの経験から席を譲ることに対して考え方が変わりました。

一つ目の経験は今年になって、部活動の試合で電車に乗ったときのことです。当たり前のように優先座席に座る若者たち。すぐそばに子連れの人が目の前にいるというのにスマートフォンをいじっている。ある言葉を思い出し自分から勇気をだして、普通の席を譲った。友達に、「いい人ぶっていたな。」とからかわれた。自分は子連れの人のために行動したのに私欲を満たすためだと言われるのは辛かったが、人の目に流されず善意を持って行動できたことは誇りに思いました。

二つ目の経験は、自分も骨折して体が不自由だったときのことです。友達は手を貸してくれたりするが、公共の場で手を貸してくれる人はほとんどいなかった。電車の席は座れそうにない。そんな中優先座席に目を向けると、大学生四人組がいた。自分から「座らせてください。」とは言いづらい。体が不自由な人はこんなに辛い思いをしているのか感じた。

この経験から、自分の周りには辛い思いをしている人がいることに気がついていないと感じた。

二つの経験を通じて不思議に思った。あなたは電車に乗るときに、優先座席を避けて座りませんか？これは「譲らなきゃいけない席に、座りたくない。」って考えがあるからだと思います。当たり前のように優先座席に座る人は、優先座席を譲るという気持ちが欠けていると思います。でも、優先座席だから席を譲る、優先座席でないから席を譲らない。これっておかしいですよね。そもそも「優先座席」を作るってこと自体、みんなが席を譲っていないことの証拠だと思います。みんなが席を譲り合える世界なら、優先座席なんていらないはず。なのに、今の社会では電車のドアが開けば、席取り合戦が始まる。目の前の不自由な人の辛い思いには気がつかず、スマートフォンの画面にしか目が届いていない。

この環境は体が不自由な人にとって本当に良くない環境だと思います。スマートフォンの画面の中より大切なことがあると、もし気がつていて譲ろうと思っても、声をかけづらい、断られたら、そんな気持ちが湧いてきて譲れない人がほとんど。

「親切にしなさい。あなたが会う人はみんな厳しい戦いをしているのだから。」

自分はこの言葉を思い出してから子連れの人に席を譲ることができました。この言葉は今の社会にとってすごく大切な考えだと思います。この考えをもとに行動すると、人の目に流されず自分の善意を貫けると感じました。

今後の社会は便利になっていくとともに、この言葉の考え方のように高齢者や体が不自由な人などの辛い思いをしている人に対する関わり方を日本人全員がもう一度見直す必要があるなと思いました。

この二つの経験から、席を譲ることは辛い思いをしていることに気がつき、人の目に流されずに善意を突き通す必要のある、簡単そうでとても難しいことだと思いました。僕の願いは体が不自由関係なしに互いに助け合える社会になってほしいということです。これから、体が不自由な人や高齢者などとの関わり方を見直すとともに、人の目に流されず、自分の善意で行動できるようにしたいです。

▼**問合せ**　地域学校教育課地域教育係☎079-435-0303